

総務文教常任委員会行政視察委員長報告

- 1 視察期日 平成23年10月4日(火)から6日(木)
- 2 視察地 鳥取県鳥取市・兵庫県豊岡市・小野市
- 3 出席委員 滝瀬光一、湯澤美恵、工藤日出夫、金子真理子、
島野和夫、黒澤健一、現王園孝昭

4 視察事項

〔鳥取市〕 人口19万6,583人（平成23年10月1日現在）

- ・人口増加対策について

〔豊岡市〕 人口8万8,323人（平成23年10月1日現在）

- ・幼児期における運動遊び事業について

〔小野市〕 人口5万565人（平成23年10月1日現在）

- ・不登校ゼロ運動（微笑みアクションプラン）について

以上の視察事項について、報告いたします。

はじめに、**鳥取市**の視察概要について報告いたします。

「人口増加対策」について

鳥取市は平成16年11月に合併し、人口20万人を超える特例市となりましたが、さらなる人口増加をめざし、平成18年度に「鳥取市人口増加対策本部」を設置し、人口増加に資する各種施策の充実強化に努めてきました。

しかし近年は、働く場・学ぶ場を求める若年層の人口流出や未婚・晩婚化による少子化などの影響で人口が減少傾向に転じたことから、平成22年度より新たに「鳥取市雇用拡大・若者定住対策本部」として再スタートしました。

新本部では、平成22年6月に「鳥取市雇用創造戦略方針」、8月に「鳥取市若者定住戦略方針」を策定し、新たな雇用の拡大に取り組むとともに、若者が地元で定住できるよう各種施策の展開を図っています。

「鳥取市雇用創造戦略方針」では、平成22年度から25年度の4年間で2千人以上の新たな雇用の場を市内に確保することを目標に掲げ、35事業を重点事業として、今後成長が見込まれる産業の振興・支援及び産業全般の底上げの両面から雇用創造に取り組み、市民、事業者、経済団体、大学、行政等が連携・協働し進めています。

一方、「鳥取市若者定住戦略方針」では、20歳代から30歳代にターゲットを定め、1. 鳥取の魅力創造、2. 教育環境の充実、3. 健康と子育ての応援、4. 優れた住環境創造、5. 農山漁村の若者の暮らし応援を5つの柱とした31事業を重点事業とし、地域の魅力アップによる定住や交流人口を増加させ、活力ある人材確保と「鳥取力」を高める人づくり・地域づくりを推進しています。そして、産み育てやすいまちづくりを進め、子どもたちのさらなる郷土愛を醸成し、持続可能なコミュニティを次世代へ継承していけるよ

う、全庁的に取り組んでいました。

次に、**豊岡市**の視察概要について報告いたします。

「幼児期における運動遊び事業」について

豊岡市では、幼児期の身体を動かす遊びや運動は、丈夫な身体をつくるためだけでなく、「脳」や「こころ」の発達にも役立つことから、平成19年度より、幼児期における運動遊び事業を導入しています。

運動遊びとは、松本短期大学の柳沢秋孝教授が考案した「柳沢運動プログラム」に基づき、主に3、4、5歳児の子どもたちが自ら楽しみながら遊べるように、いろいろな動物に変身したり、身体を使ったゲームなどを行い、日常生活ではあまり使われない筋肉を動かすことで、支持力、跳躍力、懸垂力、回転・逆さ感覚を身につけ「動ける身体」をつくるとともに脳（特に前頭葉）を活性化させ、「こころ」の成長を促すものです。

運動遊びの推進によって、できたときの喜び、達成感や満足感を自信につなげ、挑戦する気持ちや意欲を育てるとともに、友達同士でコミュニケーションをとりながら楽しく遊ぶことで前頭葉を活性化させ、抑制力や思いやる気持ちを育み「心豊かな」人間の育成を目指しています。

主な事業内容は、松本短期大学で半年間研修してきた担当の職員が中心となって、市内の保育園、幼稚園、子育てセンターなどへの巡回訪問を実施するほか、運動遊びモデル園による公開保育やクラス担任による運動遊び指導の実施などの研修会組織を設立したり、ホームページの開設や保護者向けのパンフレット及びDVD作成などの普及啓発事業等を行っています。

今後の取組みについては、大学教授等の専門家との共同で、「幼児期における積極的な運動支援が子どもの心と脳機能に与える影響」についての検証や0歳から15歳を一体的に捉えた施策の展開を図るために、小学校との連携強化を図っていくとのことでした。

次に、**小野市**の視察概要について報告いたします。

「不登校ゼロ運動(微笑みアクションプラン)」について

小野市では、平成17年度より、脳科学の第一人者である東北大学の川島隆太教授を教育行政顧問に迎え、脳科学と教育を理念とする「おの夢と希望の教育」を策定し、前頭前野（脳の司令塔）を健康に育てるのが教育であると決めました。

前頭前野を鍛えるためには、「読み・書き・計算」、「コミュニケーション」、「手や指を使う」などが有効な手段であることから、小野市では、「おの検定」という独自の検定制度を実施することによって、知徳体の向上を図っています。また、再び脳が急激に成長する10歳から15歳までの年代に着目し、脳科学の知見に基づく小中連携教育を推進しています。

不登校対策についても、「おの夢と希望の教育」に位置づけ、脳科学を活用した総合的な対応を図っています。平成18年度には、不登校児童（生徒）の未然防止・早期発見・早期対応のためのサポート体制づくりによって不登校ゼロを目指す「微笑みアクションプラン」を作成しました。

微笑みアクションプランでは、市全体で不登校に関するデータ管理を行う小野市不登校対策全体会議、各中学校区で研究課題に応じた対策の検討を行う小中連携不登校対策会議、各学校で不登校生への支援と不登校の未然防止を行う校内不登校対策会議の3つの対策会議と適応教室等の専門的知見を有する関係機関との密接な連携による不登校対策への取組みを進めています。また、脳科学に基づき、おの検定の活用による基礎学力の向上や小中連携教育による中一ギャップへの対応を図ることによって、より充実した不登校対策が実現できるとのことでした。

以上が視察概要ですが、今後、本市においても参考になる事項については御検討をいただきますよう要望し、報告といたします。

なお、詳しい資料は議長への視察報告書に添付してありますので、必要な方は御覧いただきたいと存じます。

平成23年11月30日

総務文教常任委員会
委員長 現王園 孝昭

北本市議会議長 加藤 勝明 様